



ひまわりノ畑



教育目標 思索・和敬・剛健
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/kivosedaijibutuuzekkou/index.htm>

夏休みは、「和時計」の生活を

私の一日は、飼っている犬（名前 Rigel）の散歩から始まります。夏の日のはじめは4時半頃と早く、彼は薄明が始まると寢床からモソモソと出て、人を起こして回ります。私たちは、時計で時刻を知りながら生活していますが、時計を持たない彼の一日は、朝日で始まります。

江戸時代、時計はとても高価なもので、庶民は持つことができませんでした。そこで、幕府や各藩は城下町に建てた「時の鐘」と呼ばれる鐘楼やお寺などで、太鼓や鐘を打って、時刻を町中に伝えていました。

現在の24時間定時法とは違い、一日を12に分け、ほぼ倍の長さになる「刻」という単位を使いました。呼称には「子の刻、丑の刻…」と十二支で呼ぶ方法と、「朝四つ、昼八つ…」と鐘を打つ回数で呼ぶ言い方がありました。打つ回数は9～4回で「夜明けです！（6打）、午前の1/3が終わりました！（5打）、お昼まであと1/3刻ですよ！（4打）」などと鳴らし、「おっ！9回鳴ったから、真昼九つ、午の刻だな！」などと言いながら、日の出と共に活動を始めて、日の入りで終わるという、一日だったようです。



参考：日本の伝統・文化に関する教育推進資料
東京都教育庁

日本特有な点が「刻の長さ」です。日の出・日の入りを基準にして、昼と夜をそれぞれ別々に6等分しました。常に日の出が朝6時、日の入りが夕方6時という感じです。そのため、昼間と夜間の長さは異なるため、昼夜では「一刻の長さ」が違い、季節によっても変化しました。夏の昼間は約14時間、夜は約10時間なので、昼の一刻は140分、夜は100分、現代の時間に言い換えると、昼の1時間は70分、夜は50分となります。つまり、江戸時代の人々は、昼・夜・季節により、時間が伸び縮みするライフスタイルを送っていました。

西洋の機械式時計が日本に伝来したのは戦国時代ですが、西洋では昼夜に関係なく一日の長さを等分にする定時法による時計なので使用できず、機械の作りを楽しむ置物でした。実用化されたのは江戸時代で、職人（技術者）たちは、振り子と天秤の原理を使い、昼と夜そして季節により針の動く速さが変わり、時の長さが変幻自在になる「和時計」を発明しました。「時の鐘」は、和時計で時間を計り、時刻を町に伝えることで、人々が規則正しく、健康な生活を送れるようにとの施策だったようです。当時、このようなシステムを国内全域展開するのは、他国では見られない画期的な取り組みだったようです。

豊かな四季の中で暮らす日本人は、自然に畏敬の念を抱き、虫の声などの自然の音を音楽として感じるなど、特有の感性や文化を持っています。自然の変化に人が合わせ、時の長さを変えて生活していたことに、八百万（やおよず）に心がこもるという日本古来の思想をも感じます。

そして人間は、生物学的に、昼行性の生き物です。日の出と共に活動を始め、日暮れと共に休むのが、心身の健康に適した生活リズムで、理にかなっています。夜型の生活には無理があり、健康を崩すもとです。

そろそろ夏休みの計画を立てる時期です。「夏休みはゆっくり起きて、体を休め、ちょっと遅くまで起きていても大丈夫」というのは、きっと間違いです。

夏の日のはじめは午前4時半～5時頃、日の入りは7時頃ですので、昼は14時間もあります。長期予報では、今年も猛暑になるようです。朝の涼しい時間から活動するのがおすすめです。朝寝坊はもったいない。

今年の夏休みは、江戸時代のように「和時計」の生活をしてみませんか？

ちなみに冬の日の出は6時半頃で、和時計の生活を送るリゲルを、5時には寢床から引っ張り出し、散歩に出かけています。



真夏に『ペルセウス座流星群』がやってくる！

●見ごろ：8/12（火）深夜～13（水）明け方

観測日和：8/11（月）～8/13（水）の3夜 午後9時頃～明け方

春の大型連休中に、みずがめ座流星群がありました。夏休みには三大流星群と呼ばれる中の一つ、「ペルセウス座流星群」がやってきます。日頃の夜より多くの流星の出現が期待できます。

今年の極大（一番流星が多く飛ぶ時間）は8/13（水）の午前5時との予想なので、夜が明けていますので、13日（水）の明け方に近づくほどに、出現数が多いと思われます。

夏休み中なので、保護者の方に夜更かしの許しをもらい、夜空を見上げてください。

●ちょっと、お月さまが邪魔

すこし残念な情報ですが、この時期は、満月を過ぎて数日のため、明るいお月さまが、夜空に浮かび、観測には不利です。そのため、月のない方角を観測するのが良いと思います。

暗さに目が慣れるには15分ほどかかりますので、明るい月はなるべく見ないようにしましょう。

●観測日和は、3日間ほど

流星群は、極大日の前後にも期待できますので、今回の観測日和は、8/11（月）～8/13（水）のそれぞれ午後9時～翌朝方までです。暗い場所だと、1時間に20～30個ほどが期待できます。

●母天体は、スウィフト・タートル彗星

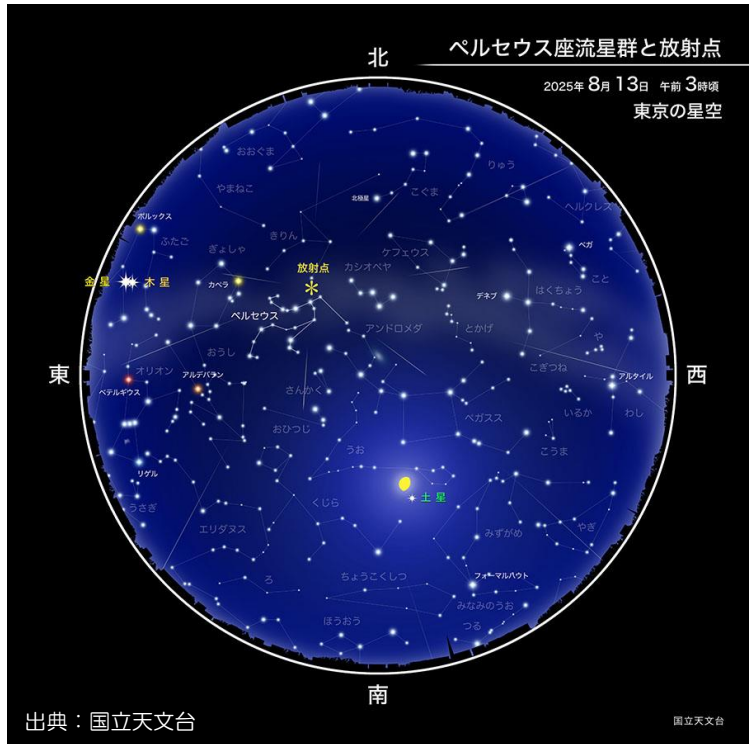
流星群は、彗星が太陽に近づいた時に溶けて吹き出した尾によって、軌道上に小さな岩石などをばら撒きます。太陽を公転している地球が、その軌道上に突入すると、その小さな岩石が地球の重力により落ちてきて、大気の摩擦で燃え尽きる現象です。ペルセウス座流星群の母天体は、太陽を133年周期で公転しているスウィフト・タートル彗星です。紀元前の中国の書物にその記録があり、前は1992年に観測されました。次にやって来るのは、100年後の2126年です。

【ペルセウス座は、ギリシャ神話に登場する勇者の姿】

ペルセウス座はギリシャ神話に登場する「勇者ペルセウス」の姿です。その姿を見た者は岩になってしまうという怪物メドゥーサを退治し、翼を持つ馬ペガサスに乗って帰国する途中、地中海上空で、生贄として、クジラの怪物に食べられそうになっていたアンドロメダ姫を見つけ、助けます。この物語に登場するペルセウス、ペガサス、アンドロメダ姫、カシオペア王妃、ケフェウス王、クジラはともに星座になっています。昔の人は夜空を見上げて、子供たちに物語を語ったのでしょね。星座絵で、左手に持つメドゥーサの顔にあるのが2等星の変光星アルゴルです。周期的に明るさを変える不思議な恒星で、悪魔という意味です。



出典：ペルセウス | 88 星座図鑑



出典：国立天文台

国立天文台

■詳しい紹介は、下の国立天文台HPをご覧ください。

①ほしぞら情報ペルセウス流星群が極大(2025年8月)
<https://www.nao.ac.jp/astro/sky/2025/08-topics04.html>

②「ペルセウス座流星群とは」【国立天文台HP】
<https://www.nao.ac.jp/astro/basic/perseid.html>

